



2030年に向けて職人工房は、
健康リフォームの普及促進を通じて、
「持続可能な開発目標（SDGs）」
の実現に貢献していきます。

持続可能な開発目標(SDGs)とは

SDGs（エス・ディー・ジーズ：Sustainable Development Goals）とは、2015年9月、国連サミットにて193の国連加盟国の間で採択された、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載されている2016年から2030年までの国際開発目標です。「世界を変えるための17のゴール（目標）と169のターゲット（取組・手段）」により構成され、地球上の誰一人として取り残さないこと（leave no one behind）を誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むべきユニバーサル（普遍的）なものであり、日本政府も積極的に取り組んでいます。札幌市は優れた取組を提案する都市「SDGs未来都市」に選定されています。





健康リフォームの普及活動

住まいは暮らしの基本となるものです。「くつろぎ」「やすらぎ」。仕事の疲れや運動・遊びの疲れを癒やし、家族とコミュニケーションを取って活力を充電する。そんないつでも帰りたい場所が住まいであるべきだと私たちは考えています。

しかし、近年になって住まいによる健康被害についての話題を頻繁に見か
るようになりました。健康被害に至ると思われる原因は様々で複雑ですが、
私たちは住まいに関わる者として、住環境と健康影響の問題に真摯に取り
組んでいきます。

「暮らしやすさ」に加えて「健やかに過ごせる」住まいづくり。地域密着を
目指す当社は、地域の皆様と末永くお付き合いできる関係を築くため、
住宅の寿命と地域の皆様の健康寿命について考え、地域の発展に貢献してい
きたいと考えております。

職人工房が健康リフォームで目指すゴール

3 すべての人に 健康と福祉を



高性能・安心な建材が健康な家と人を創る

- ・有害物質の遊離が少ない建材の使用
- ・高断熱によるヒートショック事故防止
- ・安全、安心な工事環境で職人の健康被害を減少させる
- ・健康寿命の延伸 につながり医療・福祉予算の軽減に
- ・住まいの省エネや健康に関する情報発信
- ・高齢者が生涯に渡り健康で生活できる居住空間の確保
- ・住宅及び住環境に満足している人の割合の増加

7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに



省エネ、再エネの利用促進で建築分野の低炭素化を推進する

- ・高性能断熱の積極利用
- ・エネルギー自給率向上
- ・省エネルギー商材の普及
- ・節水型商材の普及
- ・低炭素住宅、ZEH住宅の普及
- ・地球温暖化抑止への貢献
- ・本州の約5倍に上る冬季間の暖房エネルギーの削減

12 つくる責任
つかう責任



建築物の長寿命化による資源の浪費抑制、効率的な利用促進 住宅の安全性の追求

- ・建築物の長寿命化による資源の浪費抑制
- ・廃材の抑制
- ・廃棄物分別の徹底
- ・建材過剰発注の防止
- ・循環型リサイクル建材の研究開発
- ・住宅と健康の関連についての継続的な研究

4 質の高い教育を
みんなに



学び続ける環境づくり、情報発信と成長の機会創出

- ・リフォームと健康の関連について学習・研究する機会の創出
- ・健康リフォームを通じて、リフォームに関わる仕事の「やりがい」を形成していく
- ・職人の育成
- ・健康リフォームをはじめとして新たな住宅産業の需要を作り、雇用を創出する

11 住み続けられる
まちづくりを



安心して住める住宅づくり、人の元気にあふれる活気ある街づくり

- ・健康被害が限りなく無くなる住まいの追求
- ・定期的な点検作業による住まいの維持管理
- ・花火大会やお祭りなど、地域間交流を活性化する場の提供

17 パートナーシップで
目標を達成しよう



SDGsの達成に向けた実施手段の強化

- ・健康リフォームの推進により、研究機関・製造業・流通業などと提携したパートナーシップを構築する
- ・SDGs達成に向けて努力することで地域に必要とされる企業になり、事業継続に繋げていく
- ・地域に必要とされる企業となることで優良な企業イメージを作り、資金調達のリスクを低減し、優秀な人材の確保を容易にする